

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげる
まち・みち再生基本構想

平成27年3月



■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

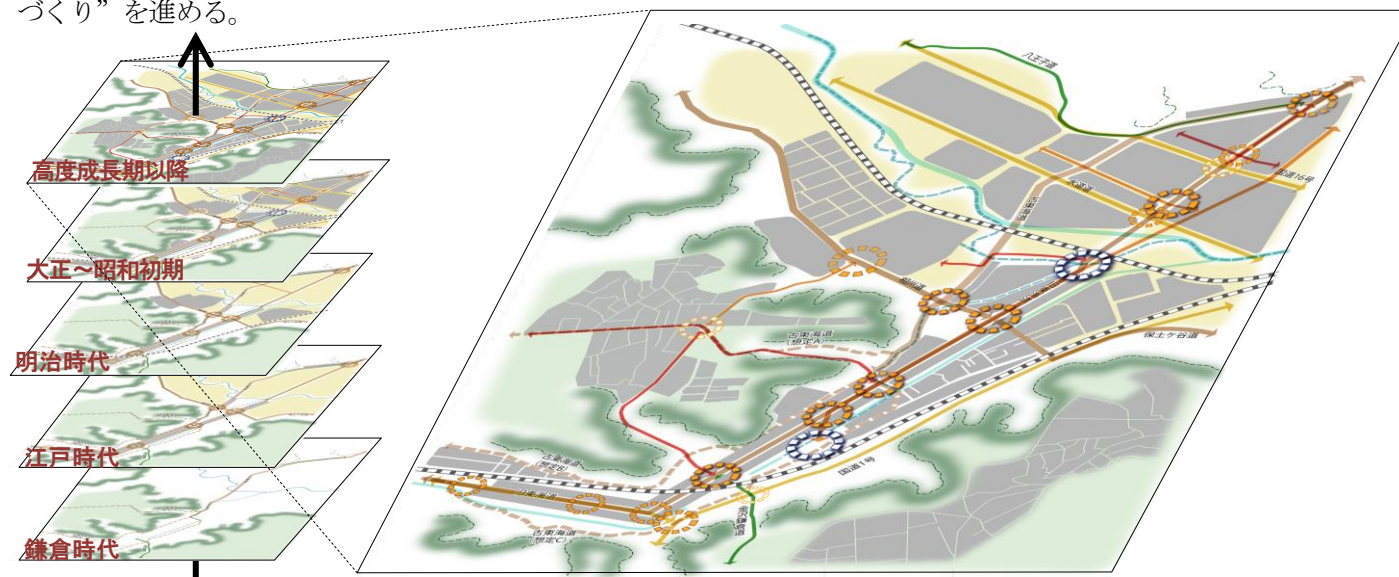
旧東海道保土ヶ谷宿周辺は、金沢鎌倉道や相州道・八王子街道、保土ヶ谷道等、宿場成立以前から交通の要衝としての歴史を有している。また、保土ヶ谷宿は、古東海道において1601年に当時の保土ヶ谷町（現在の元町橋付近）と神戸町（現在の天王町駅付近）の二町による宿として成立し、1600年代半ばには「旧東海道（現在のL字型）の整備」や「今井川の流路整備」、「岩間町、帷子町の宿への編入」などが行われた。これにより、保土ヶ谷宿はL字型という東海道五十三次の宿場町においても稀有な宿場のかたちを有することとなった。

明治・大正・昭和初期には、鉄道の整備や水運や利水等の条件を活かした多くの大規模な工場の立地とこれらに伴う市街化の進展や商業の発展が進み、戦後高度成長期以降は、丘の上の住宅地の高密化と工場跡地の土地利用転換が進むとともに、市電の盛衰、鉄道駅周辺を中心とした生活圏の発展とまちとみちのつながりが形成されてきた。

特に保土ヶ谷宿は、横浜市内の東海道3宿（神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿）の中でも、軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡などの貴重な歴史的資源が存続しており、多くの観光やまち歩きなどの利用者が訪れる場所となっている。

また、保土ヶ谷宿地域周辺では、「松並木プロムナードの再生や管理」、「まちについての学習」、「まち歩きのガイド」など、地域の歴史を活かした住民主体の多様なまちづくり活動が行われている。また、旧東海道は、明治以降に発展した市街地と駅や商店街などのまちの中心部をつなぐ軸となっており、保土ヶ谷宿時代からの歴史は現代においても周辺住民の心のふるさと（アイデンティティの拠り所）として切り離せないものとなっている。

このような背景のもと、江戸保土ヶ谷宿をはじめとしてまちの中心となってきた旧東海道を軸としながら、各時代において積み重ねられてきた歴史を活かし、地域住民や来街者等により生まれ、継承されていく“まちづくり”“みちづくり”を進める。



□まちづくりとみちづくりの視点

視点1：“まち”と“みち”の変遷を地域の魅力として継承する

各時代における“道筋・川筋の整備”と“まちの形成・発展経緯”を活かしたみちづくりや施設・機能配置によって、使いやすい道路整備や保土ヶ谷宿地域の回遊性向上、道路景観に調和した街並み形成に向けた機運の醸成等、相乗効果を高め次世代に継承する“まちづくり”、“みちづくり”を進める。

現在まで残された歴史的資源の保存・復元・修景・再利活用を図る。また、歴史の中で失われた資源についても歴史資料等の文献による再現やデザインへの反映、歴史的遺構の発掘調査による歴史的資源の掘り起こしに努め、失われた歴史を継承する。



旧東海道



今井川



まちかど博物館



風情を感じる建物

視点2：地域内外の交流を活性化

保土ヶ谷宿地域が伝えている歴史や活動等の魅力を地域内外に発信し、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々、地域活動団体等の利用特性を反映しながら、各主体が相互に交流できるような情報発信と交流の活性化を進めていく。



旧街道の風情を留める旅籠跡



松並木プロムナード



まち歩きガイドの様子



宿場祭りの様子

視点3：まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

保土ヶ谷宿地域への愛着を持ち、より深め、地域の誇りとして高めていくため、地域住民や地域活動団体、まち歩き等に訪れる人々などが主体的に関わっていく“まちづくり”“みちづくり”を進めていく。



ヨコハマ市民まち普請事業による植樹活動（瀬谷区）



道路の美化・清掃活動等を行っている例（戸塚区）



地域学習の様子



まちかど博物館での交流の様子



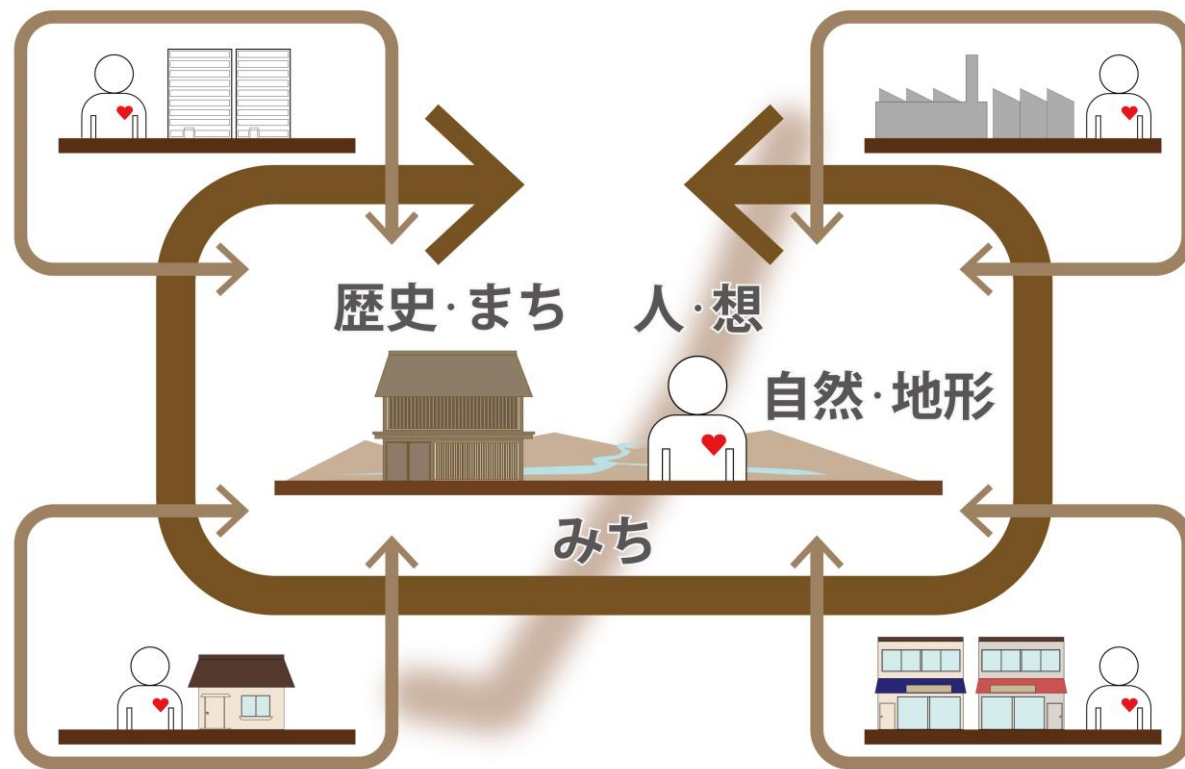
■道路空間の整備コンセプト

『保土ヶ谷宿の道筋発展の歴史を活かし“まちに奥ゆきを与える”みちづくり』

旧東海道保土ヶ谷宿周辺は、宿場成立以前からも古道の要衝であり、道筋と山あい寄り添って集落や社寺等が立地していた。宿の成立以降も道筋や川筋の変更、それに伴うまちの集約（屋敷移転等）が行われるなど、“みちづくり”と一体となって“まちづくり”が進められてきた。

また明治以降も、鉄道や工場、国道整備等を契機とするまちの発展、高度成長期の市街化の進展と駅等を中心とした人の流れなど、旧東海道に結びつく形でまちが発展してきている。

これら歴史的背景をもとに、旧東海道を軸としながら、中世以前・明治以降の道筋や川筋、それらに関連する歴史的資源、自然資源、都市的資源などを活かす道路空間を整備することで、“みち”から保土ヶ谷宿地域の“まち”の奥ゆきを生み出し、地域とともに再生・継承していく道路空間づくりを進めていく。



□景観整備の方針

方針1：旧東海道の多様な道路幅・道路断面を1つにつなぐ街道風情漂うみちづくり

保土ヶ谷宿周辺の旧東海道では、部分的に道路拡幅等が行われてきたことにより道路の幅や断面構成が異なり、1つの道としてのつながりが希薄化している。そのため、各区間に共通した風情あるデザイン要素を取り入れるなど“1つのみち”として道筋の連続性を強化する。

また、沿道の街並み形成や道路附属物等の統一を進めることで、みちのつながりの強化を図る。



国道1号保土ヶ谷橋工区



保土ヶ谷駅西口商店街



環状1号線



シルクロード天王町

方針2：保土ヶ谷宿地域の歴史の深みを継承し、東海道の奥行きを作る回遊性の高いみちづくり

旧東海道を骨格として、背後に流れる今井川や古道の道筋、山裾に点在する社寺、近代以降の発展を支えた工場跡地や商店街、高架下や沿道、建築物、歴史的人物のゆかりの地など、宿場時代から現在に至るみちづくり・まちづくりの資源を活かし、回遊性が高く、保土ヶ谷宿地域としての魅力を醸成するみちの空間形成を行う。

旧東海道と古道や主要な道路との交差点は、これまでの歴史の蓄積の中で、他の道筋や資源とつながり、徒歩や自転車、自動車利用における重要な結節点として機能している。これらの交差点等では、それぞれの特性を読み解き、まちの奥行とつながりを高めていく辻の設えとする。



旧東海道



古東海道



金沢鎌倉道



保土ヶ谷道

方針3：暮らしの豊かさを高めるみちづくり

商店街や川沿いなどでは、沿道や川沿い景観を活かした店舗や住まいの立地が促され、活用される魅力的なみちづくりを行う。また、界隈性やまちの奥行を作り出す脇道や路地、参道、眺望点等も回遊性を高める重要な資源としてみちづくりを進める。

■情報発信・交流促進のコンセプト

『住む人・訪れる人を繋ぐ、拠点の形成』

交流・情報発信施設は、まち歩き等で訪れる人々が情報を得るだけでなく、まち歩き等で訪れる人々と地域住民や地域活動団体との交流のほか、地域住民同士が交流し、地域への理解を深める場としての役割が地域性を高めていくために重要である。

そのため、保土ヶ谷宿地域の顔となる交流・情報発信拠点を形成するとともに、既存の公共施設や交流施設、地域の協力を得て交流拠点となっているまちかど博物館等と連携し、保土ヶ谷宿地域全体で地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぎ交流を育んでいく施設づくりを進めていく。

□拠点整備の方針

方針1：時代とひとをつなぐ拠点の活用強化

現在、歴史等展示などをもとに交流が行われているまちかど博物館やすぱーすほほほ等の施設のほか、公民館等の公共施設、社寺、名産・名物等を扱う店舗、公園・広場などの施設をまちづくり・みちづくりにより一層活用していく。



まちかど博物館



まちかど博物館での交流の様子



帷子会館



岩間市民プラザ

方針2：まち歩きを支援する情報・休憩拠点の形成

天王町駅や保土ヶ谷駅は、まち歩きの起点として多くのまち歩き等で訪れる人々の集合場所として利用されている。また、通勤通学等をはじめとする多くの住民等が利用している空間でもある。

そのため、駅や駅前広場等に保土ヶ谷宿地域の各種情報を得られる拠点機能と待ち合わせ場所としての十分な滞留空間を確保することで、まち歩きの利便性を高めるとともに、地域住民等にも保土ヶ谷宿地域の資源や歴史が伝わる拠点を形成する。



天王町駅前



保土ヶ谷駅前



草津宿街道交流館 案内窓口



品川宿交流館 本宿お休み処

方針3：歴史がしみ込み、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぐ交流拠点の形成

地域に開かれた交流拠点を形成することで、地域住民が日常的に利用する施設の中で自然と保土ヶ谷宿地域の歴史がしみ込み根付いていく交流拠点の形成を目指す。また、横浜旧東海道の3つの宿場町の中心として、地域住民や地域活動団体、まち歩き等で訪れる人々が交流を深める施設の形成をめざす。

交流拠点形成については、地域の拠り所である保土ヶ谷小学校跡地等の活用を検討する。



今昔写真展のイメージ



川崎宿交流館 展示スペース



川崎宿交流館 展示スペース



大山街道ふるさと館 会議室



■地域活動連携のコンセプト

『地域とともに創り育てるまちづくり、みちづくり』

旧東海道を軸として繋がり、広がる市街地や歴史的資源等を基盤とし、地域住民の関わりや地域活動団体の連携を強化し、みちづくり・まちづくりの広がりや推進力を高めていく。

また、“まち”“みち”が地域住民に永く愛され継承されていくよう、計画、整備段階からの市民参加や整備後の活用や管理に十分配慮したまちづくり・みちづくりを進めていく。

□地域活動連携の方針

方針1：まち・みちへの関心と繋がりを強化し、まちづくり・みちづくりの推進力を高める

旧東海道を軸に発展した市街地変遷の歴史を持つ保土ヶ谷宿地域の特徴を生かし、旧東海道に関連したまちづくり・みちづくりへの関心を高めることで、地域住民の街への関わりと繋がりを強化する。

また、保土ヶ谷宿地域の歴史をはじめ、交流、学習、福祉、交通など地域性やまちの暮らしやすさを高める活動を活性化するとともに各活動の連携の強化や、保土ヶ谷宿地域と市内外の活動と連携した取り組みを進め、まちづくり・みちづくりの推進力を高めていく。



ガイドボランティアの様子



子育て支援の様子(こっころHPより)



名物会のイベント出店



松並木プロムナード水辺愛護会の清掃活動(松並木プロムナード水辺愛護会HPより)

方針2：計画・設計、整備、管理・活用の各段階等への市民参加

松並木プロムナードのように自分達の“まち”、“みち”として、地域住民等の心に、より一層根付き、永く愛され継承されていくよう、計画作成やデザインの検討段階から地域の人達等が関わり、活用や維持、管理にも携わっていただけるよう、計画・設計、整備、管理・活用の各段階における市民参加を行う。

また、各種の課題解決や管理・活用がより効果的に進められるよう、社会実験やイベント等を活用した取り組みを進める。



市民参加で道路の設計を行った例(埼玉県戸田市)



市民参加で道路の整備を行った例(保土ヶ谷区)



市民が維持管理に参加している例(保土ヶ谷区)

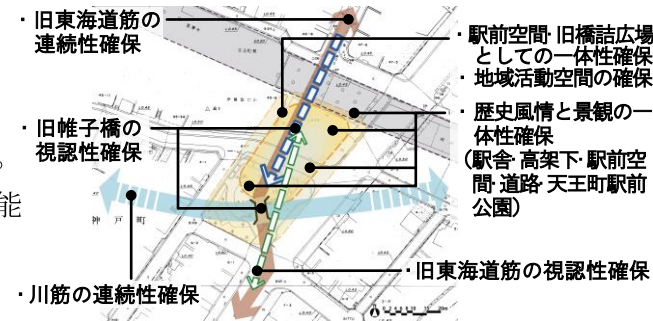


朝市街道の様子(保土ヶ谷区)

■重点地区の“まちづくり”“みちづくり”の方針

天王町駅周辺

- ・道筋の連続性を再生する。
- ・屈折部となる道筋を分かりやすくする。
- ・駅や駅広、公園、道路等の空間に一体性を持たせる。
- ・駅前広場及びまち歩きの起点としての滞留空間を確保する。
- ・まち歩きの起点・中継地としての情報発信機能、休憩機能等を持たせる。
- ・地域の催事や日常活用が可能な広場空間を確保する。

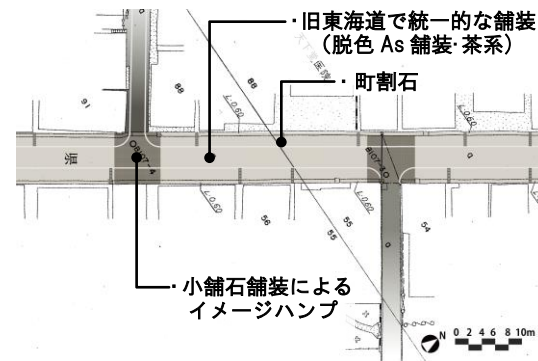


天王町駅高架下・沿道

- ・高架下空間と沿道により新たな筋を形成する。
- ・鉄道・沿道に並行して流れる帷子川の眺めや親水性を活かした空間を形成する。
- ・鉄道・沿道に交差する古道・旧東海道や旧帷子川の歴史を活かした空間を形成する。
- ・安全で快適な道路空間整備や沿道の賑わいの形成を図る。

保土ヶ谷駅西口商店街

- ・宿時代から継承される道路幅員を生かした道路景観とする。
- ・歩行者の安全性を確保する。
- ・歩車共存の道路空間として断面構成とデザインを検討する。
- ・交通のあり方を検討する。
- ・街道風情を感じる設えとする。
- ・イベント等に活用しやすい設えと仕組みを検討する。

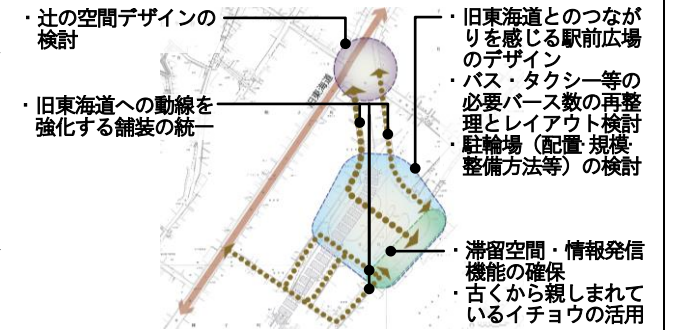


保土ヶ谷小学校跡地

- ・地域の人気が気軽に立ち寄り自然と地域性が高まる道の駅的な機能導入を検討する。
- ・歴史を活かし地域内外で交流を深める機能導入を検討する。
- ・催事可能な広場機能の確保を検討する。
- ・施設の視認性やアクセス動線の検討を行う。
- ・駐輪場・駐車場など保土ヶ谷駅との交通機能の役割分担を検討する。
- ・地域サービスに繋がる用途の複合化の検討を行う。 等

保土ヶ谷駅西口周辺

- ・まち歩きの起点として滞留空間と情報発信機能を持たせる。
- ・旧東海道への道筋や今井川の川筋との関係性を高める駅前広場空間づくり。
- ・保土ヶ谷駅西口商店街や今井川等を含めた回遊エリアの形成
- ・駐輪場の規模や配置、整備方法を検討する。
- ・バス・タクシー等の必要バースを再整理しレイアウト検討を行う。



天王町商店街・洪福寺松原商店街

- ・道路や店舗等各種施設のバリアフリーを進める。
- ・交通のあり方を検討する。
- ・賑わいの維持向上について検討する。 等

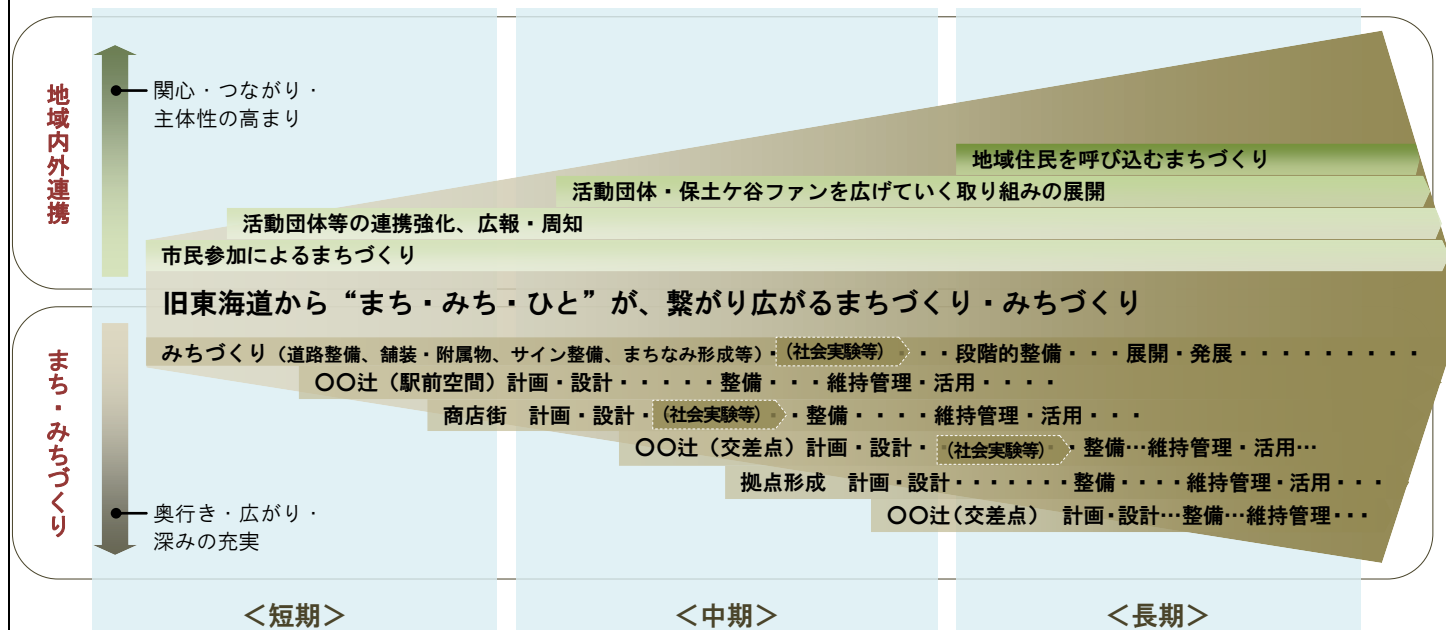


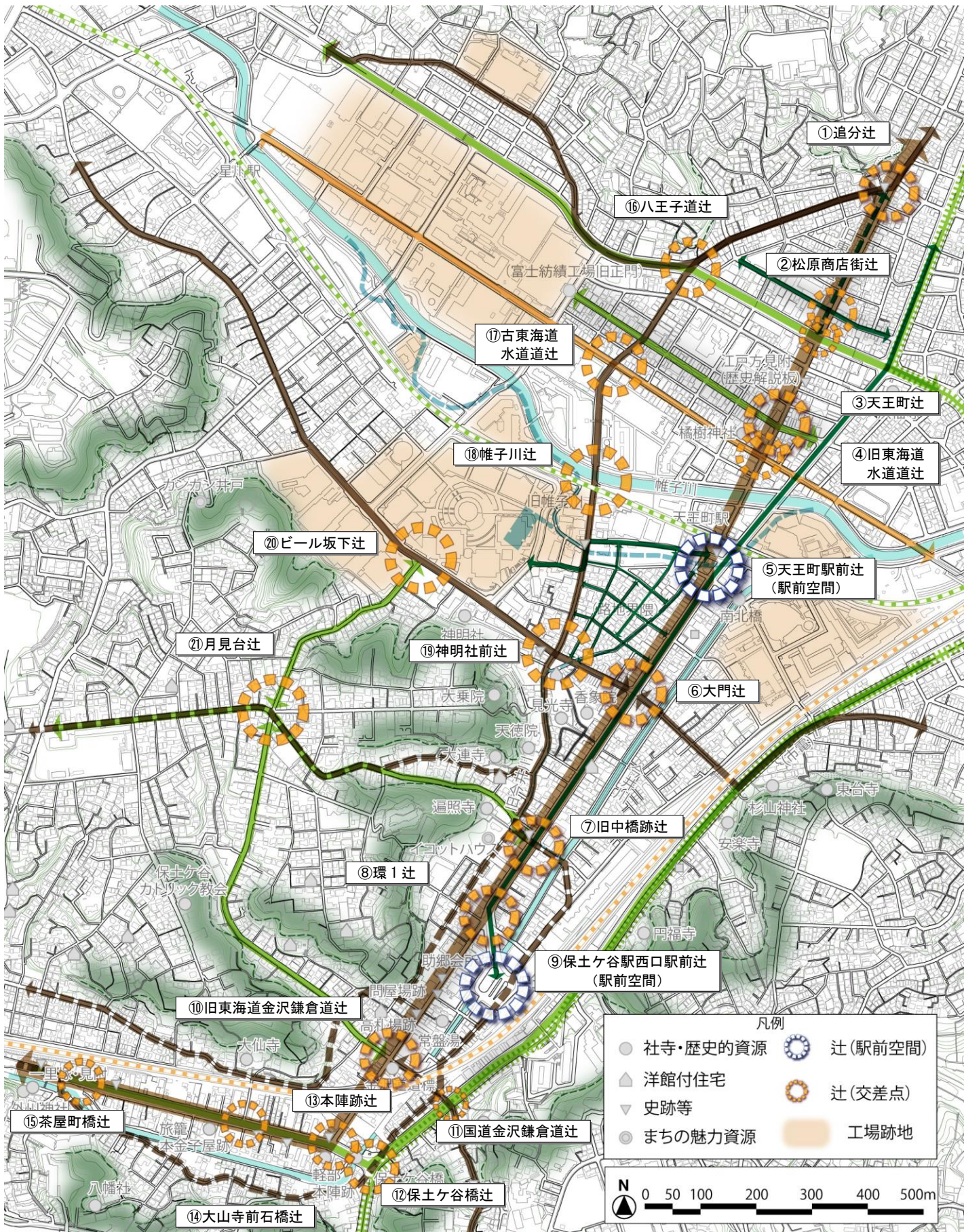
■まち・みちの再生に向けて

『旧東海道から“まち・みち・ひと”が、繋がり広がるまちづくり・みちづくり』

保土ヶ谷宿地域は、旧東海道につながりを持ちながら市街地の発展を遂げてきた一方で、まちの構成に変化が重ねられていく中で、あわせて旧東海道の認識の低下も進みつつあった。しかし、近年のまちづくり活動の活性化やまち歩き等で訪れる人々の増加等により、旧東海道保土ヶ谷宿は多くの人に地域特性として再認識されはじめており、これらの機運を活かして旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来につなげていく時機となっている。

そのため、基本構想のコンセプトや各方針を活かしながら、道筋や辻の空間づくり、拠点づくりを進めるとともに、それらを活かした多様な取り組みを連鎖させていく。これによって保土ヶ谷宿地域の特性をより深め、まち・みち・人の結びつきを強め、大きなうねりとなっていくまちづくり、みちづくりを進めていく。





■ まちの奥行きを継承するための資源と各辻と道筋等の性格

	時代別でのまち・みちの出来事				
	中世以前	近世	近代		現代
	鎌倉時代以前	江戸時代	明治時代	大正時代～昭和初期	戦後以降
各時代の道筋等の成立や整備	(— 道筋) (- - - 想定) ・金沢鎌倉道 ・古東海道 ・八王子道 ・相州道 ・保土ヶ谷道	(— 道筋) ・旧東海道	(— 道筋) (- - - 鉄道) ・水道道 ・JR線開通	(— 道筋) (- - - 鉄道) ・天王町商店街 ・国道1号 ・国道16号 ・陣中鉄道開通 ・横浜市電	(— 道筋) ・環状1号線 ・帷子川整備
各時代の川筋の形成や整備	(- - - 川筋) ・旧今井川 ・旧帷子川	(— 川筋) ・今井川			(— 川筋) ・帷子川
関連する主なまちの資源等	・社寺	・軽部本陣、旅籠本金子屋 ・脇本陣跡等史跡サイン ・帷子橋	・東京麦酒保土ヶ谷工場 ・富士ガス紡績保土ヶ谷工場跡地一帯 ・南北石油(南北橋)	・保土ヶ谷橋(震災復興橋) ・保土ヶ谷曹達 ・東洋電機製造 ・洋館付住宅	・イコットハウス ・松原商店街 ・YBP ・松並木プロムナード
辻					
①追分辻	○	○			
②松原商店街辻		○			○
③天王町辻		○		○	
④旧東海道水道道辻		○	○		
⑤天王町駅前辻(駅前空間)		○		○	○
⑥大門辻	○	○			
⑦旧中橋跡辻	○	○			
⑧環1辻		○			○
⑨保土ヶ谷駅西口駅前辻(駅前空間)			○		○
⑩旧東海道金沢鎌倉道辻		○		○	○
⑪国道金沢鎌倉道辻	○			○	
⑫保土ヶ谷橋辻		○			○
⑬本陣跡辻		○		○	○
⑭大仙寺前石橋辻	○	○			○
⑮茶屋町橋辻		○			○
⑯八王子道辻	○			○	
⑰古東海道水道道辻	○		○		
⑱帷子川辻	○			○	
⑲神明社前辻	○				
⑳ビール坂下辻	○			○	
㉑月見台辻	○			○	○

※⑪～⑮については国道1号(保土ヶ谷橋工区)における整備計画(案)にて既に検討されている。